

ところ会 4 月行事案内

花咲く“ところさわ”を歩く（三ヶ島～糶谷）

4 月 1 日は桜咲く所沢を歩くコースを企画しました。春の一日を散歩し所沢で一番標高の高い比良の丘でお弁当を楽しみましょう。

記

- 日 時：平成 28 年 4 月 1 日（金）
- 集合場所：小手指駅南口 9:03（または三ヶ島稲荷神社 9:20）
- 見学場所及び時間：コース全長約 5km
小手指駅南口(9:08 早稲田大学行バス)⇒9:17 大日堂バス停
⇒9:20 三ヶ島稲荷⇒砂川遺跡⇒妙善院⇒中氷川神社⇒金仙寺
⇒比良の丘⇒糶谷八幡⇒バス停糶谷⇒小手指駅南口
- 交通費（小手指から）：バス代 440 円
- 昼食 比良の丘
お弁当、飲み物と下に敷くものを持ってきて下さい。

■散策先簡単ガイド

<砂川遺跡>

砂川遺跡は、所沢市で最初に発見された旧石器時代の遺跡です。

昭和 41 年に明治大学が、昭和 48 年には所沢市が主体となって発掘調査を行い、ナイフ形石器を含む 769 点の石片が出土しました。

石片は 66 個の原石に復原され、ナイフ形石器等の製作工程が明らかとなりました。また、一つの石材から作られる石器の出土地点をたどることによって、遺跡が形づくられた様子も復原されています。こうした接合資料による石器製作工程の研究と、それを基にした遺跡の構造の分析は、砂川遺跡によって最初に試みられ、日本の旧石器時代研究に大きな成果をあげました。出土した石器類は、国の重要文化財に指定され、明治大学博物館に所蔵されているものもあります。

現在、遺跡の一部は整備・公開されており、石器類が集中して出土した 2 か所（A 地点と F 地点）をブロックで囲い表示しています。

砂川遺跡についての詳細は別紙にて添付した砂川遺跡.doc（「ところざわ歴史物語」の写し）を参照下さい。

＜妙善院＞ 武蔵野 33 観音霊場

曹洞宗妙善院は、東久留米の浄牧院の末寺で、本尊は行基の作といわれる白衣観世音。惣門をくぐった先の山門には仁王様と二階には十六羅漢様を安置、左手に地藏堂、右手に慈母観音像を仰ぎ、鐘楼堂が右にある。

以前には寺子屋として子弟の教育にあたり、三ヶ島小学校も当寺で開校し、また三ヶ島村役場も大正7年までここにありました。

妙善院は、沢吉縄が関ヶ原の戦いに出陣したのち創立開基した寺院で、沢氏の菩提寺となっています。沢氏画像のほかに、沢氏系図、徳川家康画像なども残されています。

旗本沢氏画像 (市指定文化財)

江戸時代に当地を支配した旗本沢氏の画像二幅が残されています。嘉永7年(1854)に幕府御書院番の沢吉良が先祖の肖像を描いて奉納したもので、旗本自信が描いたものとして珍しい。この画像は、作者が両親と兄夫妻さらに甥夫妻を描いたことになり、描かれた肖像はより実像に近いと推測されます。さらに装束からも当時の風俗などを窺い知ることができ、歴史資料としても高く評価されています。



旗本沢氏画像の第二幅



旗本沢氏画像の第一幅

右下が作者

沢氏の先祖は、小田原北条氏に仕えていましたが、吉縄のとき北条氏が滅亡し、その後は徳川家康に召抱えられました。家康から三ヶ島村のうちに150石の知行地を拝領し、幕末まで領主として知行を続けます。沢氏は合わせて600石の知行取りでしたが、吉縄から数えて7代目の幸

純が旗本最上位の幕府目付役まで昇進したのを除き、歴代当主は旗本のなかでは平均的な位置にいました。

五輪の塔（埼玉県指定文化財）

沢氏累代の墓の隣には嘉暦年間（1329）の五輪の塔がある。一部欠けているところがあるが、ほぼ完全な形で伝わっており、各石にはキャカラバアの梵字が円形の中に刻まれている。宝珠形・半円形・三角形・半円形・三角形・円形・方形の5つの石に刻まれた文字は、宇宙の原理に基づいて構成されているという**五輪、すなわち空・風・火・水・地**の梵字である。

絵師・石川文松の墓

絵師石川文松は、山口観音の六歌仙絵馬をはじめ、狭山丘陵周辺の寺社に多くの絵を残した。青梅の出身で、絵を谷文晁に学び、一時勝楽寺村に住んだが、晩年は三ヶ島村で過ごし、本寺の飛び地の薬師堂にあった小庵に住んだ。安政4年（1857）60歳で亡くなった文松は当寺に葬られた（山門近くの無縁仏の中）。当寺開山堂の天蓋には、文松が描いたと伝える鳳凰図が色鮮やかに残されている。



<石橋> いままで多くの石橋供養塔を見てきましたが石橋は見たことがありませんね、この石橋は古くからの物と聞いています。

<中氷川神社>

大宮氷川神社同様、須佐之男命（すさのおのみこと）、奇稻田姫命（くしいなだひめのみこと）、大己貴命（おおなむちのみこと）の3神を祀る。

中氷川神社の「中」の意味は、大宮氷川神社と奥氷川神社（西多摩郡奥多摩町）の中間、あるいは大宮氷川神社と武蔵国の国府（府中市）の中間などの説がある。

創建は紀元前1世紀と伝えられ、**明治初年、中氷川神社へ改称**しました。室町までは中宮、江戸時代は長宮明神社と言っていました。

中氷川神社は式内社といって延喜式（927年に編纂）に記載された神社であり、当時からあった古社だ。しかし、山口にも中氷川神社があり、どちらが式内社かは分からない。なお、所沢市の式内社は他には北野天神内の國渭地祇神社、物部天神社である。

三ヶ島葎子（みかじまよしこ）の歌碑

「春の雨 けぶる櫻の梢より をりをり露の かがやきて落つ」

三ヶ島葎子の父寛太郎は三ヶ島小学校長をはじめ各地の小学校長をつとめたが、その本家は中氷川神社の神官である。また、**左ト全**（三ヶ島一郎）は三ヶ島葎子の異母弟で、墓が金仙寺の裏にあります。

銅製三尊懸仏（市指定文化財）

懸仏とは、円板の鏡に神仏の像をかたどり、堂の内陣に懸けて礼拝の対象としたもので、明治以前の神仏習合の現れです。この懸仏は、直径 40.5cm で天正 5 年（1577）の銘があり「武州入東郡宮寺郷三ヶ嶋村宝蔵坊」に加え、数名の修験僧や在地土豪と思われる人名が刻まれています。



日歌輪翁（ひかわおう）之碑（市指定文化財）

この石碑は日歌輪翁の没後 30 年にあたる明治 17 年（1884）に、中氷川神社の氏子宝鏡教会の門人や、入間・高麗・多摩・秩父 4 郡の神道教導職門人などにより建立されました。



日歌輪翁は江戸時代の神官で、寛政 4 年（1792）に中氷川神社祠官の家に生まれました。碑文によると、少年時代は気性が激しく学問嫌いでしたが、16 歳の頃に発奮して勉学に励みます。神道に関する自らの真理を極めようと修練につとめ、25 歳の時に天神地祇の妙感を得て江戸で布教を始めると、入門者は百余人に達したといえます。「長田安田の神宝」という低利の貸し付けや「芽纏（ちまき）の神宝」と称した弱者救済など、**貧しい人々や弱者に対する社会事業**を通して、自らの教えを実践しました。著作には『安国宝鏡（あんこくほうきょう）』などがあります。

この他、神社の奥には戦後間もなく暴風雨によって倒れて枯死した**御木のケヤキ**が保存されています。

<金仙寺>

別所山 西光院 金仙寺、真言宗 豊山派、総本山：奈良県桜井市長谷寺
今から約千百年前に覚堂という僧が、真言宗を開かれた弘法大師の作られた身の丈約 59cm の阿弥陀如来を本尊として、現在地の西方「堂入り」に開山したと伝えられています。その後、鎌倉北条氏の信仰を得て、建長 6 年(1254)に八町歩余りの土地が寄贈されました。現在地へは天正 18 年(1590)堯戒律師によって再建されました。また、昭和 38 年(1963)現在の本堂が落慶、続いて昭和 45 年(1970)に庫裡が改築されました。本堂内には本尊阿弥陀如来・宗祖弘法大師・中興の祖興教大師・不動明王・観音菩薩像等を安置し、檀徒の祖先がまつられています。また、境内には新四国八十八ヶ所霊場第六十六番の弘法大師堂があります。また**樹齢約 150 年の枝垂れ桜**は『とことこ景観資源』に指定されています。

帰路 糀谷八幡バス時刻：13:22、13:37、14:52、15:07、15:52、16:22